

令和3年度 第3回羽島市立竹鼻中学校運営協議会 議事録

1	日時	令和4年3月9日（水） 午後1時30分～3時00分
2	場所	羽島市立竹鼻中学校 会議室 （北舎1階）
3	出席者	12名／19名 小森 博昭（竹花町自治会長） 安田 寛治（福寿町自治会長） 牧野 貞臣（竹鼻コミュニティセンター館長） 高木 和秋（竹鼻南コミュニティセンター館長） 松下 友幸（竹鼻中学校運営協議会会長 地域コーディネーター） 小林 美雪（竹鼻中学校運営協議会副会長 地域コーディネーター） 小笠原 秀芳（福寿町民生児童委員会会長） 岩佐 和子（福寿町主任児童委員） 浅野 弓子（竹鼻中PTA副会長） 渡邊 秀樹（羽島市教育委員会支援センター） 森山 健 （本校 校長） 杉山 正高（本校 教頭）
4	議事	1. 会長挨拶 ・竹鼻中学校区の児童生徒への支援に対して感謝の言葉。 2. 学校長挨拶 3. 現在の学校運営について（校長） ・部活動のクラブ化の現状と今後について ・性教育について ・巣立ち活動について ・いじめ問題、ネット犯罪について（弁護士授業） ・職員の避難袋訓練について（ウスイ消防指導） ・伝統継承会について ・卒業式について（CCN取材の映像を上映した） 4. 現在の生徒指導全般についての報告（教頭） ・今年度は、交通事故が多発している。特に自転車事故が多くなっている。生徒への指導をお願いしたい。 ・不登校への対応について、地域や関係機関と連携しながら、さらに改善していく。 ・学級経営を充実させて自己肯定感を高めていく。 5. 竹鼻中校区小中一貫教育の推進について（教頭） ・6年生の1日入学がコロナ禍によってできなくなった。そこで、中学校の教諭が小学校へ出前授業に出向き、小中学校の接続を図っていく。 6. 学校評価について（教頭） ・規範や礼節を大切にする地域である。 ・学力の向上及びコロナ禍においてもキャリア教育等地域の方々と協働活動を行い、生き方を学ばせていきたい。 7. 令和4年度の学校経営グランドデザインについて 審議 8. 意見交流 ・部活動の充実とクラブ化との両立を打ち出していただき感謝している。文科系の部活動に対しても今後は、民間へ移行することも今後予定されている。 ・中体連の大会には、クラブ加入だけでは参加することはできないか？ →中体連の大会は、部活動に加入している生徒が参加することができる。 ・いじめについては、「なくそう」と取り組んでいる学校は成果をあげていると思われる。いじめはなくならないかもしれないが、「いじめがあったら自分はどう

		するか?」「自分がいじめられたらどうするか?」マニュアルのような対処を生徒が身につけられるとよい。 →ガラスが割れた事案が起こったとしても、「いじめ」に関係した事案ではないか?と考え、危機意識を高くして子どもに正対していく。R4の学校経営グランドデザインにあるように、自治力・自浄力を高めていく。 ・ipadの使い方については大丈夫か? →生徒の自治力を高めるためにも、使わせながら情報教育の充実を図っていきたい。 ・生徒のプレゼンテーション能力を育てる教育が素晴らしい。 ・土日の部活動や、平日夜間にある公民館でのサークル活動への参加をみると、子どものやりすぎについては心配している。 ・道徳教育の充実が大切であると感じている。ipadの問題や「いじめ」の問題などすべては道徳的な価値観につながると考える。地域で子どもの心を育てていくことが急務である。 ・昔も今も、子どもは変わっていない、保護者は子どもの話をよく聞く、大人から声をかけて、信頼されていることを実感させることが大切であると思う。 ・小学校のPTA役員のなり手が少なくなっていることが心配である。大人のリーダー的な存在として子どもを引っ張る姿が、やがて地域で活躍する姿に反映していくため、保護者にも頑張ってもらいたい。
5	決定事項	・令和4年度 竹鼻中学校の学校経営方針の承認。
6	連絡等	○令和4年度の竹鼻中学校学校運営協議会のメンバーと日程について
7	教育委員会指導	・子どもを中心に据えながらそれぞれの立場で積極的に意見を出し、交流していただいていることに感謝している。 ・羽島市を愛する子どもたちを育てたい。今から、子どもたちに羽島市の魅力を、実際に子どもと接しながら伝えていくことが、さらに羽島市が栄えていくことにつながる。今後も学校運営協議会の推進力を高めていってほしい。 ・持続可能な羽島市にしていくためにも、学校運営協議会が意見や知恵を出し合い、校区の力をつけていくことを願う。
8	会長挨拶	・コロナ禍になって、大学を中退する学生が減っていると聞く。理由は、自分の存在が認められていると感じるようになったことである。「体は大丈夫か?」「どうしたの?」等、自分の存在を認める声かけが多くなったことにより、自己存在感の高まりにつながっているようである。 ・子どもの承認欲求を満たしながら、積極的に社会に貢献しようとする子どもを竹鼻中学校校区で育てていきたい。来年度も協力をお願いしたい。